
孫家の美尻の弟

たろう

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

孫家の美尻の弟

【NZコード】

N9973Z

【作者名】

たるづ

【あらすじ】

大学生活を送っていた矢先、乗っていたバスが事故に遭い、転生。生まれ変わった先は、蓮華の妹！？

プロローグ（前書き）

初投稿なんだな

プロローグ

Siede · ? · ?

「蓮！れん！」

もつ、どにじこつちやたんだりつ。せつせつで鬼じじをしていたのに懶に居なくなつちやつた。

思春と明命も蓮が居なくなつて寂しそうだ。

「（仕方ないなあ、わたしはお姉ちゃんだからねつ！見つけてあげなくちやー。）」

side

(眠い)

俺は木の陰に寝転びながらウトウトしていた。
5歳児の俺にとつては睡魔に抗うというのは、不可能に近い。

(. Z Z Z Z)

そしてついに睡魔に負けた。

side・思春

さつきまで、遊んでいた蓮様が急に居なくなつたため、蓮華様と明命と一緒に探しているのだが、一向に見つからない。

「わつわつ・蓮つたらビリ」といつたのよー。」

「れ、蓮華さま、落ち着いてください。・・・

蓮華様がついに怒つた。わたしはびりかして蓮華様を落ち着かせようとする。

とこゝか明命は、なにをしているんだ。
手伝ってくれてもいいぢやないか。

「おねいしゃまー・・・

・・・・・ダメだ。

ておくれだ。

「もーーーなのよー。・・・

いつたいわたしこどうじろとこつんだ・・・
蓮様、早く帰つてきてください・・・

夢を見ている。

生まれる前の夢だ。

俺は大学生だつた。

大学生といつてもそれほど頭のいい所ではなく、そこそこの中堅私立大学。

しかも、運良くセンター試験で高得点を出せたために入ることができたくらいである。

ていうか、センターの現代文楽すぎじゃね？がつぽり稼がせていただきました。

まあ、数学はやばかつたけど・・・

閑話休題

大学生活も8ヶ月ほど過ぎ、実家へ帰省しようと夜行バスに乗った。

1時間程過ぎ、ウトウトし始めた頃

突然の衝撃と共に

完全に意識が落ちた。

死んだと思ったか！？俺もだよ！
ていうか、ほんとに死んだしね。
いやー、本当にびくつりしたー。
いきなりくるんだもん、そりゃあ驚くよ。
今も絶賛驚き中。だつて・・・

気づいたら、赤ん坊になつてんだぜ？

なんだよこいつや・・・

何か目の前に、すんごい美人さんがいるし。桃色の髪に褐色の肌。
・・・あれ? どうかで見たことあるよ! つな・・・

「おひー見ひ、雪蓮ー目を開けたがー!」

「可愛いーー冥林、すごい可愛いわよー!」

「や、そうだな・・・」

あれ・・・? この人たち・・・

「オギヤーーーーーー

「うるさいつー誰だよ、隣でいきなり・・・
・・・・・首が曲がらない!」

そりゃそうだよね、赤ん坊だもんね。

「あー、『メンね蓮華。つるさかつたでしょ、よしよし』

美人な女性が、隣で泣いていた赤ん坊を抱き上げる。
ん? 蓮華って・・・
えつ? まさかこいつって・・・

「あつあー(恋姫十無双!?)」

「あーー・みつけたーー。」

ん?

うん・・・夢か、懐かしいな・・・。

「もーー! なんで急に居なくなつたの?..」

「「メン」「メン。急に眠くなつちゃ じや」

「むーー。」

「れ、蓮華様落ち着いてくださいこ」

「思春もい」苦勞様」

「や、やつねむつなり途中でいなくなつたりしないでくださいこよ・・・

・」

「おねー」こやまー (*、 *、 *)」

今日も孫四はカオスである。

プロローグ（後書き）

誤字脱字がありましたら言つてください。直します。
アドバイス等がありましたら言つてください。参考にします。
感想がありましたら言つてください。喜びます。

第1話『鍛練開始かあ・・・』――トがこいや』（前書き）

内政とか書きません。たぶん。
だって政治とかわからないもの。

第1話『鍛練開始かあ・・・一ートがいいですか』

side・蓮

どうも、俺です。

本日をもって6歳になりましたー。

しかし、前世も入れると20代中盤に入っているといつも。でも、周りにはちょっと言動が大人びている6歳程度にしか思われていない。

つーか、テンション高すぎだろ子供たちよ。

だから、いつものメンバーとしか遊ばないよ。いつめんといつやつだな。

大学時代はいなかつたからなあ・・・。

あれ? どうしてだろう、目から水が溢れてくるよ・・・。

やっぱ、第一印象って大事だよね。

俺なんか、高校時代にはいつもんはいたんだけど、その心づもりのまま大学行つたらあのざまだよ。

同じ学科に友達がほとんどなかつたよ。

サークルでめつちゃ仲いいやつもほかの学科だつたし・・・。

閑話休題

6歳になつたことと、我が麗しのお母様から、

「あなたも蓮華も6歳になつたんだから、た・ん・れ・ん、始めましょうね(はあと)

お母様・・・その年でそれはきつこつって。

とこりか、蓮華がやる気満々ウーマンなんですね。あ、思春と明命も一緒に修行するみたいね。

side・祭

今日からあの子らが鍛練を開始するから。
とこりか、儂が監督をする。

堅殿はやらんのか?と聞いたら

「私はもう現役引退したから」

うらじー。

いや、儂と同い年じゃねーが・・・。

まあこーじやねー。

重要なのはなんのよつな鍛練をわかるか・・・。

といふ変わって、鍛練場

「さて、これからお主等は鍛練を開始する」とになる。
まずは、基礎体力を鍛えることから始めねー。
まずは、1Jの鍛練場を10週じや。」

「アハハ、大変そうねー(笑)」

「策殿。あなたは50週じや」

「へアツ！？（。。一一一）」

s i d e · 三人称

「それでは、位置について・・・始め！」

一斉に走り始める蓮たち。

先頭は蓮華。それに続いて蓮、思春、明命である。
明らかに蓮華が飛ばしすぎている。

5週目を過ぎたあたりから、明らかに息が乱れてきているようだつた。

それにひきかえ蓮は、余裕とまでは言い難いが、しつかりとしたりズムで走っている。

それにやや遅れて、思春と明命。

そしてついに10週目。

7週目あたりで蓮に抜かされた蓮華は、今や思春や明命より後ろを位置を走っている。

「ラストスパートオオオオオ！」

「ハア・・・・ハア・・・・」

「ま・・・・負けませんつ・・・・」

「・・・・・・・（、、；）」

一着は蓮。それに続いて、明命、思春、蓮華である。

「最高に『ハイ』つてやつだアー！」

side 祭

蓮様が一着か・・・。

途中や最後に言っていたことは意味がわからなかつたが。

「今日からはこれを毎日鍛練の前に行つた。
さあ、へばつてこるでない！次は腕立て伏せじやー！」

「6歳程だといつのに、新兵よりも早く終えよつた・・・
これは将来が楽しみじやな。

side 雪蓮

「（・、・、）ゼハ・・・ゼハ・・・」

「余計なことを囁つかうつなるのよ

「う・・・うれしこわよ・・・眞林・・・」

第1話『鍛練開始かあ・・・一トがいいです』（後書き）

ちなみに大学の話は実体験です。

第2話『キング・クロムソンー帝王はむのトイアボロだ!・・・・でも俺ハ

オリキヤラでます。

第2話『キング・クリムゾンー帝王になれ』トイアボロだ！…………でも俺へ

side・蓮

鍛練開始から一年経つた。

キング・クリムゾンである。

でも歴代ボスのスタンドってなんかかつこいいよね。DIO様かつこいいわー。なんだよ、時を止めるつて。浪漫ありますぎだる。

でも、メイド・イン・ヘブンもいいんだよなあ。

WRYYYYYYとか言ってみたいわあ。

閑話休題

鍛練を初めて半年程経ち、基礎体力がついてきた頃、遂に武器を持つての戦闘を始めた。

蓮華、思春、明命は剣で俺は棒である。

いいじやん別に。使いたかつたんだよ。孫悟空に憧れたんだよ。同じ孫の名前を持っているから仲間意識を感じたんだよ。

そんな感じで武器での戦闘訓練を始めて半年経ち、皆さうへんの兵士を圧倒できるくらいには強くなっている。しかも驚いたことこ、この俺の体はなかなかのチートボディだったようだ、

俺より三年ほど早く鍛錬を始めた姉さんといい勝負ができるくらいの成長具合である。

姉さんも剣を使っているのだが、冥林・・・

なんで鞭なの？

Sなの？Dの？SMしたいの？女王様なの？

まあいいんだけどさ、武器なんて人それぞれだし。ネジを武器に戦うマイナスもいるくらいだし。

そんな具合に結構戦闘において非凡なる才能を見せてている俺は、鍛錬と並行して、気の扱い方を祭さんに教えてもらっている。目標は、棒の先に氣で形成した刃を作つて、槍や大鎌みたいに使うことテース。

デスマニアのビームシザーズとかマカの魔女狩りとかかっこいいいやん。

そのまま氣を伸ばして、如意棒！とかやってみるのもいいなあ。

side . 祭

「まずは昨日の復習じゃ。氣を体内で循環させるのじゃ」

「押忍！」

しかし蓮様には驚いたわい。

まるで砂漠のように教えたことをどんどん吸収していく。

しかもそれだけでは足りないのか、氣の扱い方を教えて欲しいときたものじゅ。

最初見たときにはかなりの武の才を感じたが……

予想以上じゃ。数年も前に鍛練を始めた策殿に匹敵しているとは。

これは、早くないうちにわしすらも超えてしまつかもしれんな……。

ふはは！ 楽しみじゃのう！ これほどまでに、武を、氣を、口の持てる全てを教えることが楽しいとは。

忘れかけていた・・・血の滾るようなこの熱ヤ。

蓮様！ あなたはどれほどまでに強くなるのが、わしに見せてくれ！

side . 蓮

ふひー、憑かれたー。

いやー、大変だね。鍛練つてのは。

元現代っ子の俺にとつてはきついものがあるよ。

だがこれも口マンのため・・・諦めるわけにはいかぬ！

「ですが息抜きといつものも必要だと思つわけですよはい」

そんなわけで、街に繰り出しています。

こここの街は、最近政務に関してめきめきと頭角を現している冥林と母さんによつて、かなり賑わいを見せている。

ていうか冥林その年から内政に参加するなんて……。

冥林主導で推し進めている計画もあるみたい。

冥林・・・恐ろしい子！

そのおかげでいろいろなものが流通しているこの街。

探してみると結構面白いものがたくさんある。

ほら、そここの路地裏に・・・

女の子が倒れていました。

第2話『キング・クリムゾン—帝王はこのトイアボロだ！…………でも俺へ

ちなみに作者は、ジョジョアニメーターの一番くじで、承太郎が当たりました。

第3話『女の子の名前は太史慈』（前書き）

今年最後の投稿

第3話『女の子の名前は太史慈』

side・蓮

女の子を保護しました。

氣を失っていたので、城に連れて行き専属の医師に見せた。ただの栄養失調のこと。食事をしつかり取ればいずれ回復するだるうつてさ。

それにしてもこんなに小さい子がビーフしたんだねえ。
この街には、ろくに食べることもできないよつな子供は居ないはずなんだけど・・・。

「…………んつ」

おっ、起きたみたいだ。

「…………」

「…………」

見つめ合つ俺たち。
どないせえつちゅうねん。

「…………ビーフへ。」

「お城の中だ」

「お城?」

「そう、お城」

—
•
•
•
•
•
•
 Γ

たまんないでよ。

卷之三

これは

一 腹空いてんのか？」

一
・
・
・
(ニクリ)
一

しかし、お粥が届くまであと少しくらいかかりそうだ。
なんかねえかなあ。
お、あつたあつた。

「ほれ、これでも食つとけ」

「なに・・・・・これ・・・・?」

「饅頭だよ。知らねえのか?」

「中にあんこが入つてて甘くてうまいんだ。食べてみるよ」

「せむ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

「だろ?」

「ひぐひ・・・・・おこし・・・・・おこし・・・・・

「そりゃ良かつた

「あ、あつがとつ・・・・・

「びひいたしまして」

饅頭も食べ終え、泣き止んだ女の子から話を聞く。

この子の名前は太史慈。

隣町で暮らしていたが、両親が事故で亡くなり身寄りがなくなり、食べるものにも困るよくなつたため、なんとかしようとこの街に来る馬車に乗り込み

来たのはいいけれど、馬車の持ち主に見つかり追いつめられたとして、力尽きたらしい。

「よく頑張ったな

•
•
•
•
•
•

「辛かつただろ？頼れる人がいなくて寂しかつただろ？」一人でよく頑張つたな。

もう大丈夫だ。もう安心していいよ。これからは俺がいるから」

「…いいの？」

「ああ」

「それでも……いいの？」

「ああ」

「私ね・・・お父さんも・・・ひぐつ、お母さんも死んじゃつて・
でも一人で頑張らなくちゃ いけないから、泣いちゃ いけないと思つ
て・・・」

• • • • •

「でも、わっ・・・我慢しなくていいんだよね？」

「二二九。御二神」

「・・・ひぐつ・・・うつ、うわああああああああああああ・・・」

俺にしがみつき、堰を切ったように泣き出す太史慈。

よく頑張ったな。

泣き止むまで、抱きしめあがよひつじやないか。

「ひぐつ・・・け・・・い・・・

「ん?

「私の真名・・・景・・・

「いいのか?」

「いい」

「なら俺の真名は蓮だ。よろしくな、景

「（パシパン）・・・うんひー。」

起きたら皿の前に男の子がいた。
おまんじゅうをくれた。甘かった。美味しかった。
ここに居てもいいって言ってくれた。
泣いてもいって言って抱きしめてくれた。

side・景

嬉しかった。

お父さん、お母さん、私ね・・・。
頑張ったよ。

泣かないように頑張ったよ。

だけれど、どこにも居場所がなくて・・・。

でも、優しい男の子が、一緒にいてもいって・・・。

だから、安心してね。

一生懸命にで頑張るから。

私、一生懸命頑張るから。

だからやっとお母さんで見守つてね。

第3話『女の弓の名前は太史慈』（後書き）

このオリキャラなんだけど、
恋みたいな無口キャラにするか、
マジ恋の京みたいにするか、
どっちがいいと思つ？

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9973z/>

孫家の美尻の弟

2011年12月31日18時45分発行